

## ブドウ「シャインマスカット」の 無核栽培における花穂整形法

ブドウ「シャインマスカット」は、農研機構果樹研究所が育成した無核栽培が可能な白系の大粒有望品種です。大粒種で高品質生産を図るためには、無核栽培に適した花穂整形法の技術開発が重要です。さらに、近年、花穂の先端が帯化したり分岐する異常がみられたため、山形県農業総合研究センター園芸試験場でその場合の対応も含めて花穂整形法を開発しましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 「シャインマスカット」の無核栽培における花穂整形は、開花始期に主穂の最下部4cm程度を残し、着粒は40～50粒/房にすると、果房重600g程度の高品質の果房が得られます（図1：主穂先端区）。
2. 年次により主穂先端が帯化したり分岐する形態異常が発生する場合があります。軽度な異常であれば、異常な部分（先端1～2cm）を切り詰め、その上部4cm程度を残すと、最下部を残した場合と同等の品質の果房が得られます。この場合、収穫期の果房はやや横幅が広い房形になる傾向があります（図1：主穂切詰め区）。
3. 重度の異常で主穂の利用が困難な場合は、上部の支梗の中から十分な長さのものを選び先端を4cm程度に整形すると商品性のある果房が得られます（図1：長・短支梗区）。
4. 支梗を利用した果房は、着粒や果粒肥大が劣る傾向があるので、満開期～満開3日後のジベレリン処理時にホルクロルフェニユロンを加用します。



図1 各区の花穂整形後の外観  
(花穂整形は開花始期に実施。いずれの区も4cmを目安に整形した)

### ☆ 活用面での留意点

支梗を利用する場合は、主穂の下部を使う場合より開花期が2～3日早いので、ジベレリンの処理時期に留意します。摘房は10房/坪を目安に7月中旬までに実施します。その他詳細については、山形県農業総合研究センター園芸試験場・果樹研究科(TEL:0237-84-4125)までお問い合わせ下さい。

(農研機構果樹研究所 企画管理部 研究調整役 別所英男)